



# 園だより

令和6年5月20日  
第一早蕨幼稚園  
園長 生田 増美

幼稚園の裏庭の夏ミカンの木に黄緑色の葉が茂り、時折アゲハチョウが卵を産みに来ています。新設された満3歳児保育室の子どもたちが、窓に張り付き、その様子を見て歓声をあげています。やがて実る夏ミカンの生長も楽しみに、身近な自然を楽しんでいます。

今年は幼稚園の畑が豊作で、4月、5月には大きな玉ねぎや甘くてやわらかいスナップエンドウがたくさん収穫できました。早速、オニオンリングにしたり、ゆでたてのスナップエンドウを食べたりして、おいしい春を味わいました。普段は、野菜が苦手な子どもみんなで食べるとれたて野菜は格別。おそろおそろ食べてはみたものの、そのおいしさにお代わりをする子がたくさんいました。これからも、きれい、おもしろい、楽しい、おいしい、不思議・・・素敵自然を感じながら過ごしていきたいと思います。

## やっと泣けた！！

5月中旬、色々な遊びが盛り上がりを見せ、園外保育などの行事も始まりました。笑顔たくさんの日々ではありますが、一方では、新たに涙が出始めた子もいます。せっかく順調なスタートだと思っていたのに、泣きながら登園する我が子を見送るのは、ご家族には辛いことでしょう。でも、ほとんどの子がずっと泣いている訳ではありません。たいていは、お母さんの姿が見えなくなると気持ちを切り替えて遊び始めます。お母さんとのお別れは悲しいけれど、楽しいことがあることもちゃんと分かっています。

ある日、担任の先生が「やっと泣いたんだよ。Aちゃんが」と話している声が聞こえました。「ほんと、良かったね」「やったじゃん」と先輩先生たちの声も聞こえてきます。この時期に、毎年のように繰り返される会話でもあります。今まで、緊張感と不安をじっと我慢して硬い表情をしていたAちゃん。

子どもたちが家で泣いたり、時には大暴れするのは、泣いてもよいのだと思っているからです。泣いても、お父さんやお母さんは、私のことを好きでいてくれる、という安心感があるからです。頑張っても良い子でいなくても、叱られている時でも愛されているとちゃんと分かっているのだと思います。「家でいっぱい泣くんです」という話をお母さんから聞くと、家族に受け入れられている幸せな子なのだろうなと思います。担任が、Aちゃんがやっと泣けたと喜んだのは、泣いてもよいのだと信頼して自分の気持ちを表現できたと思ったのです。ここからAちゃんと先生の本当の関係が始まります。泣くのも怒るのも大歓迎。もちろん、笑顔もたくさん見たい。

「いっぱい泣いたら次は幸せな笑顔になるよう、お父さん、お母さんの次に信頼される人になりたい！」と決意した？？きっと決意した？担任でした。

お願いします

- ・通園カバンにつける目印のキーホルダーは1個にしてください。たくさんつけていると引っかけたり、無くなってしまうことがありますのでご協力をお願いします。
- ・園では、職員が薬を預かって服用をさせることは、安全を考えてお断りしています。エビペンなど緊急時に必要な薬についてはご相談ください。